

「型技術者会議 2007」

特別企画

開催日時：2007 年 6 月 19 日（火） 10：00～12：00

開催場所：大田区産業プラザ PiO 小展示ホール

「今後のくるま造りににおける型技術」

総合司会：戸沢 幸一（日産自動車(株)）・今成 政秋（トヨタ自動車(株)）

趣 旨： 日本の自動車は、低燃費・高品質・リーズナブルな価格によって、世界市場の中で確実に売上を伸ばし、かつ高い収益性を維持している。

自動車開発においては、燃料電池車、ハイブリッド車に代表される新たな動力技術、ハイテン・アルミなどを活用したボディ軽量化など、環境技術への積極的取り組みが注目されている。

一方、B R I C s に代表される自動車消費国の多様化に呼応した「くるま造りのグローバル化」に伴い、型造りの多拠点化も大きな話題となっている。

本特別企画では、乗用車生産において日本を代表する 3 社から、生産のグローバル化や商品開発の動向など、今後のくるま造りに対応した型技術について、その取り組み、最近の成果、今後の技術課題などを総括していただければと思います。

講演内容：（敬称略） * 各講演 30 分 総合討論 30 分

1）グローバル時代のモノづくりと型づくり

トヨタ自動車(株)

森下 忠晃

2）造形再現性を高める型技術

日産自動車(株)

久恒 智彦

3）今後のくるま造りににおける型技術/型造り

ホンダエンジニアリング(株)

永光 達夫

「型技術者会議 2007」

特別セッション

開催日時：2007 年 6 月 19 日（火） 16:10～18:10

開催場所：大田区産業プラザ PiO 小展示ホール

「日本の強み：現場改善（QC サークル）」

総合司会：藤代 浩司（(株)宮津製作所）・小林 繁（(株)ソディック）

趣 旨：今回3回目となるQC発表会は、前回と同様下記趣旨にて実施します。

1) 日本の物造り現場の真の力である、小集団活動による改善力を再認識する。

2) 実際の物造り現場に携わる技術者、技能者に広く参加をお願いする。

3) 現場改善の生の情報を伝え、“役立つ参考事例”として活用頂きたい。

依って、発表内容・形式・効果の大きさなど一切問わず、企業・職場単位の自主的な発表を行います。

講演内容：（敬称略） ＊質疑応答含 各 20 分

1) 超音波を利用した射出成形品質評価	(株)柴田合成	桐生 英幸
2) CAD/CAM と連携した放電加工の自動化	三菱電機(株)	渡辺 浩太郎
3) デリバリー設計による顧客満足度向上	THK(株)	畠中 勇
4) アウターパンチの品質向上と工数低減	(株)オギハラ	川村 幸夫
5) 機械自動化運転に向けた現場改善	(株)宮津製作所	山崎 敬次
6) インサート用ホルダーの加工改善	日立ツール(株)	坂本 博

「型技術者会議 2007」

特別セッション

開催日時：2007 年 6 月 20 日（水） 10:00～12:00

開催場所：大田区産業プラザ PiO 小展示ホール

「がんばる日本の型屋さんパート 2」

総合司会：中川 昌夫（オークマ(株)）・矢部 和寿（(株)牧野フライス製作所）

趣 旨：金型製造メーカーを取り巻く環境は、自動車業界、家電業界の好調さを反映して、明るい雰囲気がうかがわれ始めています。独自技術を有し、経営戦略が優れた型屋さんに勢いを感じられます。前回の型技術者会議のアンケートでは、再度多数の方が、同業の型屋さんの話を聞きたいという要望がありました。また、今回特別セッションとして、経営戦略から自動化などの技術革新や人材育成などの色々な視点から、日本のものづくりを支える「がんばる型屋さん」にお話をお願いすることにいたしました。講演者の方には、「新しいものづくりへのチャレンジ」など自慢話を是非していただき、本会議参加企業様の今後の更なる活性化のヒントとなればと期待しております。

講演内容：（敬称略） ＊質疑応答含 各 30 分

- | | | |
|-------------------------------|-------------------|-------|
| 1）金型作成における情報共有化の推進 | (有)フォーサイト・ソリューション | 小玉 仁 |
| 2）金型屋の夢と現実 | (株)小出製作所 | 小出 悟 |
| 3）小さな型屋にできること - 進むべき道を見極める - | (株)カワマタ・テクノス | 川又 重雄 |
| 4）試作用インジェクション金型における 5 軸加工の有効性 | (株)モールド技研 | 渡邊 栄作 |

「型技術者会議 2007」

特別セッション

開催日時：2007 年 6 月 20 日（水）13:00～15:00

開催場所：大田区産業プラザ PiO 小展示ホール

「大学における金型教育の導入・実践」

総合司会：白井 健二（日本大学）・高橋 一郎（独）理化学研究所）

趣 旨： ここ数年来、東アジアをはじめとした諸外国へのものづくり技術の流出と国内産業の空洞化が問題視されています。加えて、若年層の製造業離れや、2007年問題として取り上げられている団塊世代の大量定年が危惧されており、ものづくり技術の継承と人材育成の問題が深刻化しています。

わが国のものづくり産業は、その高い技術力により支えられてきたはずで、中でも人的な技術力の高さを最大の特徴としてきました。このことから、『ものづくりは人づくりである』という再認識も生まれているように、高度な技能・技術を継承していくための教育制度の充実が問われています。そこで本特別セッションでは、特に大学において、ものづくりに重点を絞ったカリキュラムや「金型学科」のような制度を開設されている関係各位をパネラーに招き、その内容や進捗をご紹介します。金型業界が望む人材育成に関して、企業からの要望や質問に対して活発なディスカッションの場となることを期待します。

講演内容：（敬称略） ＊質疑応答含 各 30 分

- | | | |
|---------------------------------------|-----------------|--------|
| 1) 大学院工学研究科に期待する金型研究 | (株)ぐんま産業高度化センター | 斎藤 勝政 |
| 2) 地域におけるものづくり教育 - 生産システム工学専攻設立 - | 群馬大学 | 久米原 宏之 |
| 3) 金型大学院における新たな工学教育の挑戦 | 岩手大学 | 岩淵 明 |
| 4) 北部九州高度金型中核人材育成プログラムと大学における自立化プログラム | 九州工業大学 | 鈴木 裕 |